

(様式第 11 号) (第 14 条関係)

## 令和 3 年度 「みんなの力でつくるまち」活動支援事業評価報告書

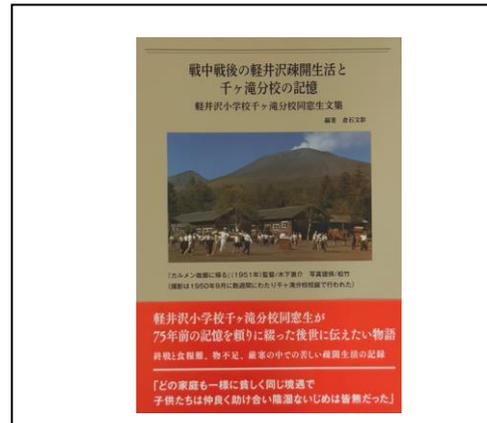
事業名	戦中戦後の歴史から学ぶ町づくり人づくり事業
団体名 (連絡先)	戦中戦後の歴史を語りつぐ会 長野県軽井沢町大字長倉星野 32 倉石文彰 Tel: 090-8087-8715
総事業費	874,030 円 (うち補助金: 250,000 円)

### 事業内容

○母校軽井沢小千ヶ滝分校が町の歴史から忘れられているので何か書いたものを残そうと作ったワープロ打ちの同窓生文集を編集して、「戦中戦後の軽井沢疎開生活と千ヶ滝分校の記憶」1500 部を出版...

○本を町立図書館、町内の全公、私立小、中、高校に寄贈、さらに小諸、松本市立図書館、国立国会図書館に寄贈、配架頂いた。このほか本を町内有識者、町民、別荘居住者、分校同窓生などに贈呈した

○種々の会合を利用して本の紹介を行った。



【 】

### 事業効果

1. 200 部を無料配布したほかほぼ同数を販売できたため、本の内容、趣旨を町民 (学生を含む)、別荘居住者に伝えることができた

2. 町立図書館、国会図書館などに寄贈し配架いただき、貸し出しも多く本の読者が広がった

3. 信濃毎日、朝日両紙が大きな本紹介記事を掲載したため本とその内容が全県的に伝わった。

4. 文化協会、別荘団体連合会の催しなどで本と疎開生活、分校での自由でのびのびした教育の効果 (いじめは皆無で生徒同士の助け合い) などを紹介できた。

### 【目標・ねらい】

- 本が残っていない戦中戦後の時代を書残す。
- 厳しい疎開生活の一方自然環境が良かった点を伝える。
- 分校の自由教育の良さを伝え教育の在り方を啓発する。
- SDG's の視点から町の景観、自然保護についての意識を高める

自己評価 (目標達成率) 【 A 】

### 今後の取り組み

※自己評価欄は「A」90%以上「B」70~89%「C」50~69%「D」49%以下で示すこと。

1. コロナ禍で計画通り開催できなかった分校同窓生執筆者による講演会、懇談会をボランティアアベースで開催したい。(以下全てボランティアアベースで経費は自己負担で実施)...
2. 本の無料配布を続けると同時に本の販売努力も続けたい。
3. 本の執筆者同士一度も会って話したことがない人が多く、ほぼ全員が 80 歳以上なので、本年中に是非とも第 1 回軽井沢小学校千ヶ滝分校同窓会を開催したい。